



図書館だより

第9号 平成17年2月発行
弓削商船高等専門学校図書館

目次

平成16年度読書感想文優秀作…………… 1
 平成16年度学生図書委員…………… 1
 自ら調べる習慣を身につけよう
 学校長 西垣 和…………… 2
 特集 学生アンケート…………… 2～3
 図書館へようこそ…………… 4
 新着図書紹介（おすすめの一冊） …… 5～6



図書館横の松原海岸では、毎年夏になると「あおばずく」がひなをかえしにやってきます。左端が母親であるの三羽が生まれたばかりの子供達。（写真提供 竹林清志）

平成16年度読書感想文優秀作

- | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <p>S1 浅海聡一朗「五体不満足」を読んで
 小原 光「夜」を読んで
 小嶋 将太「葉っぱのフレディーいのちの旅ー」を読んで
 吉井 智大「左目を失って見えてきたもの」を読んで</p> <p>M1 窪田 陽介「もの食う人々」を読んで
 鹿野 正治「アルケミストの感想」を読んで
 野間 慶彦「五体不満足」を読んで
 村上 知宏「ほたるの星」を読んで</p> <p>I1 浜原 周平「君たちはどう生きるか」を読んで
 宮原 亜希「世界が終わっても気にすんな 俺の店はある」を読んで
 宮本 和明「十二番目の天使」を読んで
 村上 祐亮「妻と私」を読んで</p> <p>S2 石田貴己夫「不良少年の夢」を読んで
 伊藤 竜末「浦島太郎」を読んで
 岩本 陽介「八つ墓村」を読んで</p> | <p>M2 倉本 大輔「塩狩峠」を読んで
 福本 聖「ぼくはポートピアだった」を読んで
 藤井 克樹「坊っちゃん」を読んで</p> <p>I2 石田 康洋「もの忘れて絶対困らない本」を読んで
 片山ひとみ「人間失格」を読んで
 河野誠次郎「西遊記」を読んで
 小牧 大介「木を植えた男」を読んで
 神原 秀明「神様がくれたH I V」を読んで
 澤田 和也「I tと呼ばれた子」を読んで
 仲原 悠貴「吾輩は猫である」を読んで
 宮本 克史「エイジ」を読んで
 村上 将光「わたしたちを忘れないで」を読んで</p> | <p>木村 光生「世界がもし100人の村だったら」を読んで
 杉本 真理「機関車先生」を読んで</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|

平成16年度学生図書委員紹介

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| S1 村上 明憲 | M2 西原 潤一 | I3 池田 優子 | S5 住村 航太 |
| M1 鹿野 正治 | I2 澤田 和也 | S4 山口 照実 | M5 山根 恵司 |
| I1 岡野悠太郎 | S3 中橋 勇貴 | M4 石井 良一 | I5 村上あかり |
| S2 藤本 師光 | M3 梶原 一平 | I4 柏原 伸哉 | |

自ら調べる習慣を 身につけよう

学校長 西垣 和



私は仕事柄、長く図書館を利用してきましたが、いわゆる“本の虫”ではなく、必要に応じて集中的に利用するタイプです。新しい研究のアイデアが浮かぶと、誰もやっていないかどうか確かめるために、少なくとも50年間分の文献は調べていた。若い頃はコピー機がなかったので大学ノートを持って何ヶ月も図書館に通っていたこともあります。ところで、図書館の膨大な書物、いつ頃から作られるようになったのでしょうか。実は、遠くルネッサンス時代にグーテンベルクが活版印刷術を発明（1450年）したことに端を発しています。それまでは知識の保存、伝達機関が無く、一部の人達が学術・宗教などを独占して封建社会を形成していましたが、印刷製本が可能となって一般の人々にも情報が広まるにつれて、大変な情報革命が起こり、これを

契機に近代市民社会の夜明けを迎えました。今日われわれは、高度情報化社会を迎え、計り知れない変革の道を歩んでいます。例えば、CD-ROM版の電子ブック、ネットワークを介した電子新聞、電子ジャーナル、電子図書館等々が次々に現れてきています。

私の手元にも電子辞書があるし、1998年頃からアメリカの物理学会誌の電子ジャーナル版を取って、研究室で読んでいました。このように現在は、紙媒体と電子媒体が入り乱れています。これらは利用目的によって一長一短あり、どちらがどうだと一概には言えない訳です。現在の図書館は、書籍・文献・記録などの資料を収集・整理・保管し、利用者の閲覧に供しており、誠に大切な施設です。図書館の良い点の一つ挙げれば、開架の図書を手にとって、ぺらぺらと捲ってみることが出来ることです。これにはどんなツールもありません。思いがけない本に出会ったり、偶然に前から気になっていた問題を解く鍵が得られたりすることもあります。気軽に図書館に行くと多くの出会いを求めて下さい。また、学生諸君には、不思議に思っていたり、あるいは講義だけでは釈然としない点など、沢山の疑問があるはずで。それらを放置しないで、自分で積極的に調べる習慣を身に付けることを勧めます。勿論、読書によって教養を高めることも非常に大切です。あなたにとって図書館は限りなく大切な存在です。

思いがけない本に出会ったり、偶然に前から気になっていた問題を解く鍵が得られたりすることもあります。気軽に図書館に行くと多くの出会いを求めて下さい。また、学生諸君には、不思議に思っていたり、あるいは講義だけでは釈然としない点など、沢山の疑問があるはずで。それらを放置しないで、自分で積極的に調べる習慣を身に付けることを勧めます。勿論、読書によって教養を高めることも非常に大切です。あなたにとって図書館は限りなく大切な存在です。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

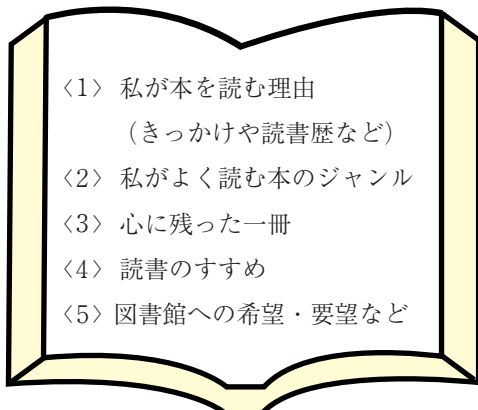
◆ 13 池田 優子

- (1) 私は小さい頃から物語がすきでしたが、いつも聞き手でした。本格的に本を読むようになったのは小学生の時です。学校の図書館がきれいで、蔵書も美品が多くてよく本をかりるようになったのがきっかけです。校内で貸し出しランキングなどもあったので友人と順位を競うようになってからは夢中で読んでいました。
- (2) ファンタジー、歴史
- (3) 「ロードス島戦記」水野良著、私が初めて読んだファンタジー小説です。作り込まれた世界観の中繰り広げられる重厚なストーリー、“永遠の恋人”となる妖精のヒロインなどの魅力的な登場人物、全てが私の胸をおどらせます。きっと一生離せない本だと思います。
- (4) 私は本を読む事で漢字の読みに強くなったと思います。ですから漢字なんて苦手だという人は少しずつでも本を読むといいのではないのでしょうか。
- (5) もっと新刊増やして欲しい。また、いつ入荷するか事前に告知してもらいたいです。

特 集

学生アンケート

図書館を良く利用している学生諸君に読書に対する思いや図書館への要望などをアンケート形式でお願いしました。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆ M1 村上 知宏

- (1) 最初は本はキライだったと思う。そこまで時間をかけてまで見る気にもならなかったし。で、いつかは忘れたけどヒマだったので表紙だけ見て本を借りました。それが何十と続くシリーズ物だったので、1作品だけ見て終わるのも中途半端なのでそれを全部見ていたら、いつの間にか読んでたのだと思う。たぶん。
- (2) 短編推理小説、ホラー
- (3) 「分身」東野圭吾著、中学の時初めて読んだんだけど、最初に長そうでイヤだなと思った記憶があります。実際読むのに一ヶ月かかりました。けど話の展開や人物に躍動感があり、構成もしっかりしていて今でも好きな一冊。
- (4) 本を読むと文章を書くのが上手になったりするので少しは読んだほうが良いです。自分もレポートや読書感想文を書く時に全然何も思いつかずに書けないから。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆ S3 中橋 勇貴

- (1) 本を読む事によって知識やその他情報が得られるし、作者の考えや思いを本を通して知り将来に役立てたい。
- (2) 歴史小説、推理小説
- (3) 「アポロは月に行ったのか? -Dark Moon月の告発者たち」、アポロの月面着陸を始めとする人類の月面探査、その記録の正当性に疑問を投げ掛けた作品。アポロが撮影した写真には矛盾がはっきり映し出されている。
- (4) 本を読むことで集中力が身につきます。自分が見たことのある映画などの原作を読んでもみるのも楽しいです。
- (5) 図書館の本の一掃（時代にそわない古い本など）。校内の掲示板を活用して新刊などの情報を掲示する。校内でアンケートの実施。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆ M4 小村 太郎

- (1) 資格の勉強のため。技術士、CAD利用技術者試験、工業英検等。
- (2) 資格試験の参考書・問題集
- (3) 「ハリーポッターと賢者の石」、初めて文学の本で面白いと思った。読書に慣れていなくても簡単に読める書物。
- (4) 資格の勉強なら図書で借りの方が良い。経済的だから。ただし、最新版などは入ってくるのが遅いため、状況によっては自分で買った方が良い。
- (5) 古雑誌が欲しい。技術に関する新しい本や技術士の本は毎年欲しい。もっと明るい照明に。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆ I2 矢野ありす

- (1) 私が本を読む理由と聞かれても、「読みたいから。」としか答えようがありません。読書には言い表し難い魅力があるのです。
- (2) 特に決まっていません。食指が動けばなんでも。
- (3) 心に残っている本は沢山ありますのでここにあげきれません。
- (4) —
- (5) 注文した本がなるべく早く届くようにして頂きたいです。あと、シリーズものを最終回まで揃えて欲しいです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆ I2 帆足 恵

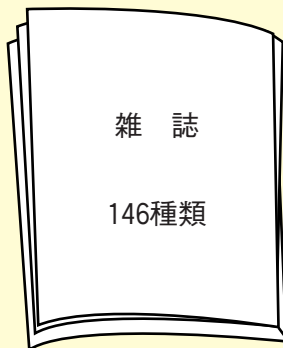
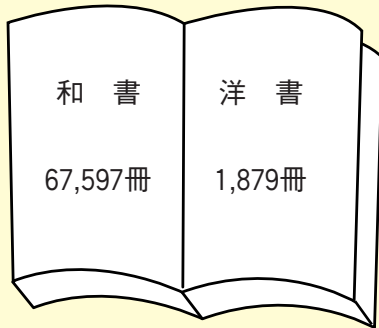
- (1) 私は読書中毒である。暇さえあれば、いや暇でなくとも本を何冊でも、何時間でも読んでしまう。本を読む理由は只、「読みたいから」若しくは「読まなければ気がすまないから」。本が傍になければ落ちつかないという末期症状。考えてみると、私は文字が読めるようになった時から本の虫である。きっとこの中毒は治らないだろう。
- (2) ホラー、ミステリー、…、(今流行の純愛系やファンタジー以外は何でも)。
- (3) 岩井志麻子の「ぼっけい、きょうてい」。まず、情景の描写の美しさに驚かされた。この本には残酷な表現やグロテスクな表現が多いのだが、それにさえ美しさを感じた。その美しさがじわりとくる恐怖を産んでいるのかもしれない。何回読み返しても、この本は様々な意味で感動させられる。
- (4) 苛々している時、憂鬱な時には本を開き、一向活字を脳内で自由に映像化し本の中にのめり込めば、苛々も憂鬱もどこかに忘れてしまうことができると思う。本はなにも縛りつけない。途中で止めようと思えば止めることができるし、本を開けば又直ぐに続きを楽しむこともできる。そして、自分の想像で自由にその物語を映像化出来るのである。
- (5) 注文した本がもっと早く来たら良い。



図書館へようこそ

利用時間
 平日 8:30～19:00
 土日 8:30～16:30

貸出し
 3冊以内、14日以内



ビデオ403巻



図書館利用状況

(平成15年度)

※ 網がけ 内は時間外利用

(1)入館者数

事項	合計
学生(人)	20420
教職員(人)	2028
学外者(人)	316
計(人)	22764
開館日数(人)	3972
一日平均(人)	247
	238
	92.2

(2)館外個人貸出者数

事項	合計
学生(人)	1450
教職員(人)	293
学外者(人)	239
計(人)	22
	40
	13
合計(人)	1729
	328

(3)館外個人貸出冊数

事項	合計
学生(冊)	2168
教職員(冊)	447
学外者(冊)	661
計(冊)	42
	148
	41
合計(冊)	2977
	530

(4)図書貸出状況(分類別)

分類別	000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	その他	合計	貸出日数	1日平均貸出冊数
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学技術	産業	芸術	語学	文学				
合計	186	43	62	188	240	1442	40	65	61	650	0	2977	247	12.1
百分率(%)	23	6	12	45	47	255	0	16	28	96	2	530	238	2.2
	6.3%	1.4%	2.1%	6.3%	8.1%	48.4%	1.3%	2.2%	2.1%	21.8%	0.0%	100.0%		
	4.3%	1.1%	2.3%	8.5%	8.9%	48.1%	0.0%	3.0%	5.3%	18.1%	0.4%	100.0%		

新着図書紹介

(おすすめの一冊)

○『人間裁判 ―朝日茂の手記―』

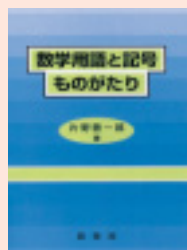
(朝日 茂 著)



人間が人間らしく生きる権利、日本国憲法25条1項の規定の現実への適用を求めて、咯血し、血痰をはきながら病身にむち打って10年間の長きにわたって闘った朝日訴訟の原告、朝日茂氏の手記である。39年ぶりに改めて刊行されたものであり、憲法を暮らしに活かしていくということを今一度考え直してみるきっかけを与えてくれる貴重な前例である。自らエネルギーを掻き立て闘い続けたその強靱な精神力には目を見張るものがある。

○『数学用語と記号ものがたり』

(片野善一郎 著)



この本のまえがきに、次のように書かれています。(抜粋)「数学は数千年の歴史を持つ(中略)です。単に計算技術としてだけで数学をみるのではなく、(中略)としてみることも大切なことです。数学用語や記号の由来を尋ねることは文化としての数学を理解する第一歩なのです。」

こんなに難しく考えなくても、数学の記号や用語に、こんな楽しみ方もあるのかと、気軽に手に取ってみたいはどうか。

○『遠島島流し』

(大隅三好 著)



これは、森 鷗外「高瀬舟」(拙著「高専の国語」所収)の言わば副教材として購入をお願いした書である。

時代劇でもお馴染みの「遠島」という処罰について、いや、江戸時代の刑罰全般について私たちはけっこうわかっていないのが実情だろう。しかしそうはいつでも、あの260年も続いた時代を、そしてそこに生きた大衆の生活をマクロ的に捉えなければならないのであって、刑罰システムというか治安システムだけからそれらを理解するのは困難であろう。

「高瀬舟」の主人公喜助がなぜ遠島という過酷な処

罰を受けながらも希望を持ち、晴れやかな表情でいられたのか。その理由の一端を本書にうかがい知ることができるのである。

○『話し方入門』

(D・カーネギー 著)



タイトルからもわかるとおり、この本はさまざまな場面で話をするときのアドバイスが示されています。偉大な話し手だったリンカーンやセオドア・ルーズベルト、マーク・トウェインなどの豊富な例から話し手としてマスターしなければならない数々のポイントを解説しています。アドバイスの内容は、プレッシャーに屈しない勇気と自信を養う方法にはじまり、事前の準備方法、年号や名前のおぼえ方、上手な話し方の秘訣、人を引き付ける導入の方法や終わり方まで、幅広い説明が興味深く書かれています。これから就職する学生や教職員の方にも薦めたい本です。

○『ナノテクノロジーの基礎科学』

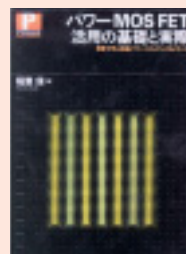
(Mick Wilson外 著) 小菌井薫 監訳



ナノテクノロジーは、今後の巨大な成長分野であると考えられ、あらゆる分野における革新が期待される技術である。こうした事を踏まえ、本書はナノテクノロジー分野の入門書として書かれた。物理、化学、光学の基礎的な解説から、ナノテクノロジーで使われる材料の物性、その具体的な応用についてまで、詳しく解説されている。

○『パワーMOSFET活用の基礎と実際』

(稲葉 保 著)



パワーMOSFETやモータを始めとするパワーデバイスの活用テクニック、スイッチング電源などの回路技術、モータやインバータなどの電力制御テクノロジーまで、実践で役立つ設計技術をわかりやすく解説しており、ロボットコンテストに参加したいと思う学生諸君がパワーMOSFETのことを勉強するにはお勧めの一冊です。



○『仏教の心理と創造性』（恩田 彰 著）



今日創造性や心理臨床の傾向として、東洋の知恵がもたらされ、気づきや直観または想像力を引き出す瞑想の研究が、西欧の研究者の関心を集めている。本書は著者が仏教の心理の特質を特に創造性の立場から探求して

きた研究テーマについてこれを集大成的にまとめたものである。創造性とは何かという創造性の定義および概念の研究は創造性の研究にとって出発点であり、また到達点でもある。本書は創造性の基礎をなす想像力と直観の二つの源流に迫る。

○『シュタイナー教育の創造性』

（佐々木正人 訳）
（ルネ・ケリードー 著）



著者は現在カリフォルニアのルドルフ・シュタイナー大学の学長。

本書はシュタイナー学校で催された「教師と父母のための講演」を1話から7話にわけて、シュタイナー教育の真髄とする

ところを語るものである。シュタイナー学校では、子供たちの習うことはすべて「心」を通じて行われるべきであるとしている。心から「行動への意欲」が生まれます。そして、意欲と行動から「理解」が生まれます。特に、驚き、感謝、責任感の子供時代にきちんと身につけさせることの大切さを強調している。本書はシュタイナー学校の理論を知り、少年期の創造性教育にヒントを与えます。

○『TRIZ入門』（畑村洋太郎 編著）



「TRIZ」と書いて「トゥリーズ」と読む。人の考える道筋に科学性はあるのか？という疑問に明確に「ある」と答え、さらにそれを技術問題の解決に積極的に利用するのがTRIZである。TRIZは今から約50年前に旧ソビエトで創始され発達したものである。

その基本的な考えは、人が技術的問題を解決するときには必ず通る道筋があり、そのことを知って積極的に用いれば単なる勘や経験に寄らず頼らず、一定のレベルの解決法を見出せるというものである。開発・設計技術者をめざす諸君に一読の価値があります。

○『新しい自治体の設計（全6巻）』

（森田 朗 編）



これまで続いてきた右肩上がりの成長の時代は終わり、これからは本格的な成熟の時代をむかえる。そしてさまざまな分野で制度の変革が推し進められている。地方自治においては、経済、政治、社会を統合する「場」

が国民国家から地方自治体へとシフトする分権型社会へと大きく動き出した。本シリーズは地方自治体が打ち出す政策のシナリオを全分野にわたって網羅し、政策立案のヒントを与えるとともに、地方分権を国民的視点から考えるという面が意図されている。



編集後記

21世紀の幕開けから5年が経過しました。この間ひとゲノムの解読がなされ、また、最近NASAの土星探査衛星がタイタン表面にパラシュート着陸に成功し、地球にデータを送っています。人類の好奇心の強さと科学技術の急速な進展にあらためて驚きと素晴らしさを感じます。

一方、高度情報化と大量物流の時代を向かえ、世界の国々との関わりが益々強くなってきたことを実感します。世界の急速で複雑な動きや突発的な出来事がいろんなかたちでわれわれに影響を与えます。世界がある方向に向って大きく動いていることを世界の潮流ともいいます。この潮流をきちんと把握し、将来の姿を見据えることが大切です。学生諸君がこのような事柄にも関心を持つことを期待しています。図書館はこのための資料や書物をさらに充実すること、また、今回のアンケートにもありました学生諸君のいろんな要望にも応えていきたいと思っています。図書館を大いに活用して下さい。